

# 薬局での糖尿病患者への療養支援の質と経済評価

岡田 浩 ●京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 特定講師



京都大学薬局研究グループメンバー

## 1. 背景と目的

社会の高齢化の進行は、生活習慣病患者数の増加と医療費の高騰を招いており喫緊の課題である。この対策として先進諸国では、薬局薬剤師による生活習慣病患者への生活改善支援プログラムが実施され、HbA1c、血圧、血清脂質だけでなくCVリスク等も改善することが報告されている。しかし本邦においては、薬局薬剤師による療養指導は必ずしも一般的ではなく、実施されている療養指導の質の差は大きいと考えられる。

そこで今回、国内で実施された2型糖尿病患者へのランダム化比較試験：COMPASSプロジェクトで開発された、薬局での動機づけ面接プログラム：「3☆(スリースター)研修」の糖尿病療養指導について「構造(Structure)」・「過程(Process)」・「結果(Outcomes)」に分けて解析し、クオリティ・インディケーター(QI)を開発する。また、開発した「QI」が医療費に与える効果について、評価可能な経済モデルを開発する。

## 2. 取組みの方法／期待される成果

日本糖尿病学会の『糖尿病診療ガイドライン』、日本老年医学会『高齢者糖尿病治療ガイド』

『3☆ファーマシストを目指せ!』、これら3つの書籍を基に、薬局薬剤師が行うべき糖尿病療養指導の質評価指標(QI)の候補を薬剤師と多職種(糖尿病療養指導士・糖尿病専門医)からなるレビューボードで開発する。具体的には以下の手順で実施する。

- 1)「3☆研修」受講薬剤師によるワークショップを実施し、「QIの候補」を抽出する。
- 2)多職種(医師、看護師、薬剤師)からなるレビューボードにより審査を行い、薬局の臨床現場で使用できる「QI」を選択しベータ版を開発する。
- 3)開発したベータ版の「QI」を複数の薬局(阪神調剤・中川調剤)で数か月間使用し検証する。
- 4)「QI」の変化を基に、薬局での糖尿病療養指導の効果についての経済効果モデルを「吹田スコア」・「JJリスクエンジン」を用いて開発する。

本研究により開発されたQIを現場で活用することで、薬局現場で実施すべき糖尿病療養指導のスキルが「見える化」される。そのことは、薬局薬剤師の活用による医療の質向上、糖尿病患者の血糖値改善といったアウトカム改善と、長期的には医療費削減効果も期待できる。